

## 表紙解説

この遺蹟は福岡県行橋市南西部に位置する御所ヶ岳、別名ホトギ山（標高二四六・九メートル）の山頂から山麓一帯にかけ、外周三キロメートルにも及ぶ古代山城（神籠石式山城）である。御所ヶ谷にある神籠石は国の史跡に指定されている。花崗岩の切り石と土塁が巡らされている。表紙の写真は、この山城の中門と呼ばれる場所である。古代に築造された山城ではあるが、「日本書紀」「続日本紀」に記載がない。

この山城の上の地は、景行天皇が熊襲征伐の際に、この地に立ち寄ったと伝えられており、現在は景行神社が鎮座している。神社の境内には神社の礎石跡と言われる場所も残されている。

古代に築造された山城で遺構でしか存在の確認できないものを神籠石と呼んでいる。

古代山城（朝鮮式山城）とよばれているが、築造主体など建設の経緯は一切不明

である。

この遺蹟には門跡七ヶ所（東門・中門・西門・第二の西門・東北門・南門・南西門）、列石十ヶ所、梁行三間×桁行四間の総柱礎石群などが確認されており規模と保存状態が良い遺蹟である。門跡の中でも、この中門の規模は特に大きく、水門は高さ七・五メートル、長さ十八メートルの二段の石壁で作られ石材は全て花崗岩である。

山頂部を底辺北側の谷を頂点とする三角状の範囲（東西底辺一九〇〇メートル、南北高さ一六〇〇メートル、比高差一七〇メートル）が列石と土塁によって囲まれ、一部の列石は二重になっている。

この山城は百済の復興を願う軍と倭軍が西暦六六三年朝鮮半島の白村江にて戦い、唐・新羅軍に大敗した直後に作られた遺蹟、太宰府の水城、大野城対馬の金田城、基山町の基肄城とほぼ同時期の者と考えられ、国土防衛の為に造られた山城と考えられる。



（白村江の戦いの後、右手の山に大野城・中央に水城、太宰府庁を守る施設・城塞として作られた。）

### 編集後記

二二八号をお届けします。

今回は拡大評議員会の決議事項、決算報告、二八年度予算、年間計画、役員・会員名簿が掲載されています。

新しい役員のもとで作成された会誌です。少しでも読み易くと考え、今回会誌の活字ポイントを少し大きくしてみました。読まれた御感想御意見をお待ちしています。

また、今年度会員の増加を図るために、九月の日帰り研修（直川方面）を土曜日に設定しています。少しでも多くの人々の参加を考えての事です。二八年度の研修計画を熟慮の上奮って参加してください。

